

【教育実践論文(ソニー子ども科学教育プログラム) 審査講評】
2020年度 最優秀校
旭市立干潟中学校

地域の自然や環境を活かした理科教育の充実に取り組み、着実に実践を広げ
深め、目指す「科学が好きな子ども」の姿に迫る研究を継続されてきました。

理科授業のあり方について貴校としての独自の理念に基づく考え方や視点
(手立て) が示され、実践の4つの柱が明確で、地域の自然環境を生かし、実物
で教育しようとする提言性のある内容となっています。

実践1「地域の大地から探究」(2年生)では、地域の地層や大地について入念
に調べ、自然に触れる活動と実験で確かめて考えを深めていく探究過程を踏ま
えて単元が構成され、学習活動が展開されています。また、実践2「地域の自然
からの探究」と実践3「地域の気象からの探究」においても、身近にある自然に
触れ、体験しながら探究し、自然の見方・考え方を培う学習展開が示されていま
す。これらの学習活動では、地域で見られる地層、レンコンなど身の回りの自然
に着目し、周到的な事前観察、予備実験などの準備を行って、優れた単元構成と授
業計画を作り上げています。

また、授業の構成も研究主題に即してしっかりと立てられており、実験器材も
手作りで用意して「一人一実験」を行わせたり、体験を通して観察させるなど、
生徒が主体的に学習に取り組んでおり、考えを発表・表現したり、振り返りの場
面でのノート記述などによって考察を深めさせるなど、「感性」と「挑戦心」を
養い、観察力を高める優れた実践となっています。「干潟中気象プロジェクト」
は観察力を高め、主体的・協働的な探究活動として大変魅力的な授業構想です。

次年度においては、今年度の成果と課題を踏まえ、更なる発展的な展開を模索
されていますが、校内研修などを見直し、ディベート活動を新たに加えるなど、
さらに研究を進めていただけることを期待しています。